

---

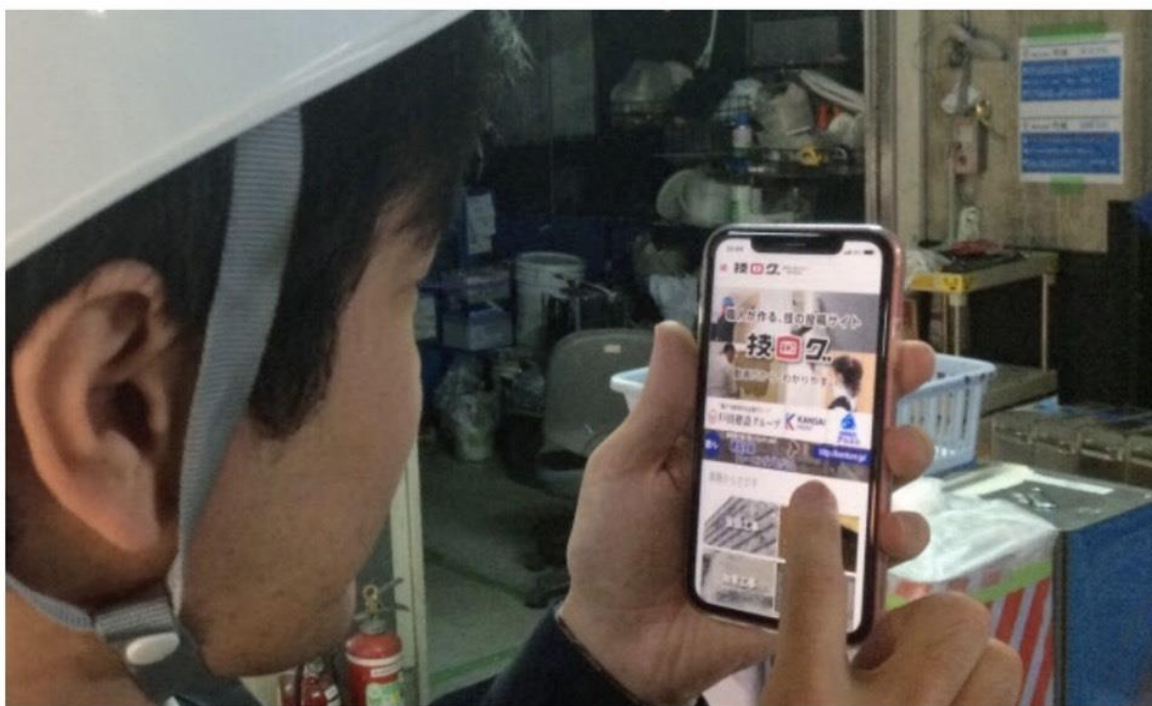
# 建設業、助っ人はIT

## 代金即日入金 職人の技を動画で 新興企業、中小の業務支援

日本経済新聞 朝刊 新興・中堅Biz (9ページ)

2019/3/11 2:00

建設現場を担う職人や下請け企業の効率化を支援するスタートアップ企業が増えている。工事代金を即日受け取れるようにして資金繰りに関する業務を減らしたり、動画で技能を伝承したりするサービスが登場した。建設業の人手不足は深刻化している。大手建設会社はIT（情報技術）やロボットの導入を自前で進めているが、中小事業者は新興企業の知恵に頼っている。



**KM** ユナイテッドは塗装などの作業のポイントを確認できる動画を作成した

---

建設業向け求人アプリの助太刀（東京・渋谷）は工事終了後に即日キャッシュレスで工事代金を払い込むサービスを始めた。1月にクレディセゾンと連携し、アプリ利用者専用のプリペイドカードを作成。チャージされた代金はVISAカードの加盟店で買い物などに利用できる。



助太刀が工事代金を発注元に代わって職人に支払い、後日、発注元から代金を受け取る。同社のアプリは約5万人以上が使っており、年内に1万人のカード利用を目指す。昨年にはセブン銀行と組み、同社のATMで現金で受け取れる仕組みも作った。



職人の悩みは資金の手当て。建設業界は発注元から現場作業まで多数の事業者が関わる多層構造で、工事代金の入金も遅れることが多い。即日入金されるシステムがあれば資金繰りに関連する業務に追われずに済む。

塗装工事のKMユナイテッド（京都市）は職人の技術を動画で学べるサービスの提供を始めた。土木、防水といった19種類の作業のコツを解説する動画を計約450本閲覧できる。

技能伝承は待ったなしの課題だが、ベテランは足元の作業も忙しく教育に割く時間は確保できない。人手を割かなくても技能を学べることを訴え、19年中に約2500件の契約獲得を目指す。

様々な事業者が関わる建設現場では、工務店や下請け事業者などが情報を共有し、工事をスケジュール通りに進めることが必要になる。ダンドリワークス（滋賀県草津市）は現場に関わる事業者や職人が設計図や工事の進捗状況を確認できるクラウド型のシステムを展開している。現在、2万7000事業者が利用している。

国土交通省の「建設労働需給調査結果」によると、1月の6職種の過不足率（季節調整値）は1.8%の不足。2011年以降、働き手が足りない状況が続く。助太刀、**KM**ユニテッド、ダンドリワークスの経営者はいずれも建設業の経験者。現場発の発想で、人手不足時代に商機を見いだしている。

（若杉朋子、香月夏子）